

Ⅲ. 調査結果

1. 回答者の基本属性

1-1 回答者の性別

本調査では、日本オリンピックズ協会（以下、OAJ）に登録のある会員 965 人のうち、473 人から回答を得た。はじめに、回答者の男女比をみると「男性」が 69.6%、「女性」が 30.4%であり、男性が 2 倍以上を占めた（表 1）。オリンピックの夏季と冬季の出場大会別に男女比をみると、夏季大会では「男性」が 70.5%、「女性」が 29.5%、冬季大会では「男性」が 65.6%、「女性」が 34.4%といずれも男性が大幅に上回った。2015 年 3 月時における OAJ 会員の男女比は、男性 68.0%、女性 32.0%であることから、本調査の男女比は全体構成と近似しているといえる。またこの比率は、これまでオリンピックに出場したすべての日本人オリンピックの男女比とも近い値である（表 2）。

表 1 回答者の性別 (%)

	全体 (n=473)	夏季 (n=376)	冬季 (n=96)
男性	69.6	70.5	65.6
女性	30.4	29.5	34.4

※夏季・冬季の両大会に出場した男性 1 人は「全体」のみに含めた。

表 2 オリンピック大会への出場者の性別 (%)

	全体 (n=5,192)	夏季 (n=3,955)	冬季 (n=1,237)
男性	68.9	68.8	69.0
女性	31.1	31.2	31.0

日本オリンピック委員会ウェブサイトより作成 (2015)

1-2 回答者の年代

回答者の年齢をみると、全体の平均年齢は 56.8 歳であった（表 3）。夏季大会出場の男性の平均年齢が 62.3 歳で最も高く、冬季大会出場の女性の平均年齢が 36.1 歳で最も低い。

年代別にみると、「60 代以上」が 46.9% と最も高く、回答者のほぼ半数にのぼる（表 4）。次いで「40 代」18.8%、「50 代」17.1% と続き、40 代以上が全体の 8 割をしめた。

夏季・冬季大会別および性×年代別にみると、夏季大会出場者では「60 代以上男性」が 41.5% と最も高く、「50 代男性」16.0% も含め、比較的に高齢の年代では男性の割合が高い（表 5）。一方、回答数は少ないものの、「40 代」以下では、男女とも回答のない「10 代」を除き、すべての年代で女性の割合が男性を上回った。冬季大会出場者では、夏季と同様に「60 代以上男性」29.2% が最も高かったが、「40 代男性」（17.7%）と、「30 代女性」（16.7%）で夏季より高い割合を示した。

表 3 回答者の平均年齢

（歳）

全体 (n=473)	夏季		冬季	
	男性 (n=265)	女性 (n=111)	男性 (n=63)	女性 (n=33)
56.8	62.3	51.6	53.8	36.1

表 4 オリンピアン構成比（年代別、n=473）（%）

年代	全体
10代 (n=4)	0.8
20代 (n=21)	4.4
30代 (n=56)	11.8
40代 (n=89)	18.8
50代 (n=81)	17.1
60代以上 (n=222)	46.9

表 5 オリンピアン構成比（年代別×性別） (％)

年代	性別	夏季 (n=376)	冬季 (n=96)
10代	男性	0.0	2.1
	女性	0.0	2.1
20代	男性	0.8	4.2
	女性	1.9	7.3
30代	男性	4.0	7.3
	女性	4.8	16.7
40代	男性	8.2	17.7
	女性	9.3	5.2
50代	男性	16.0	5.2
	女性	4.3	0.0
60代以上	男性	41.5	29.2
	女性	9.3	3.1

※夏季・冬季の両大会に出場した男性 1 人は集計から除外した。

1-3 出場競技

夏季・冬季大会別に出場競技をみると、夏季は27競技、冬季は8競技の回答があった(表6)。夏季競技では、「水泳」が76人と最も多く、以下、「バレーボール」38人、「陸上競技」30人、「体操」28人、「ボート」23人と続く。冬季競技では、「スキー」38人が最も多く、「スケート」18人、「アイスホッケー」16人、「ボブスレー」10人と続いた。回答者の中には複数回出場の経験者も多数いるが、複数の競技で出場したオリンピックは男性1人のみであった。該当者は夏季と冬季の両大会に出場し、競技は夏季では「陸上競技」、冬季では「ボブスレー」に出場した。

表6 オリンピック競技別の出場者数 (n=472) (人)

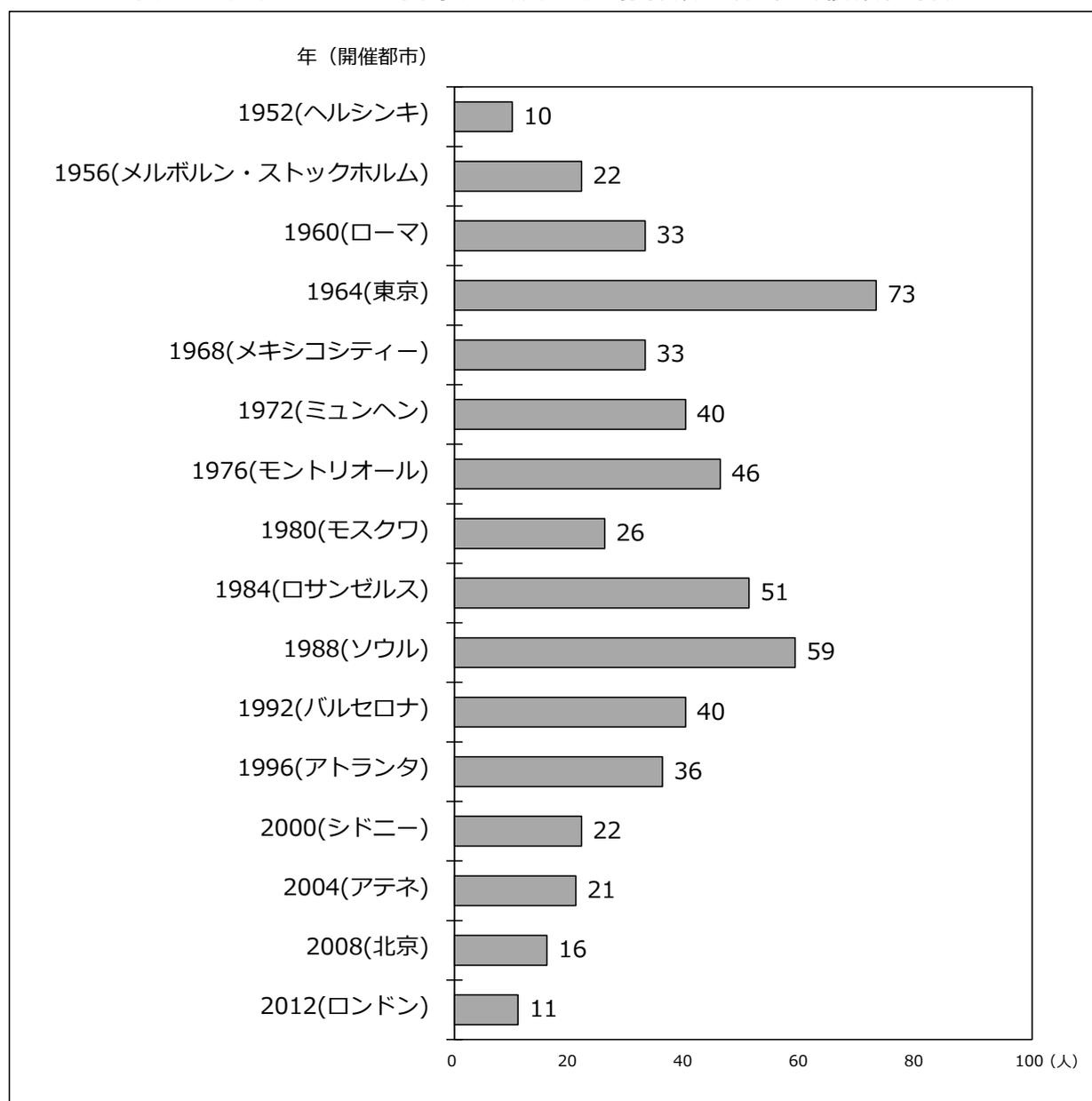
No.	夏季競技	出場者数	No.	冬季競技	出場者数
1	水泳	76	1	スキー	38
2	バレーボール	38	2	スケート	18
3	陸上競技	30	3	アイスホッケー	16
4	体操	28	4	ボブスレー	10
5	ボート	23	5	カーリング	4
6	レスリング	15	6	バイアスロン	4
7	バスケットボール	14	7	リュージュ	4
8	射撃	13	8	スケルトン	2
9	フェンシング	13	合 計		96
10	サッカー	12			
11	セーリング	12			
12	馬術	12			
13	ハンドボール	12			
14	ウエイトリフティング	11			
15	自転車	11			
16	柔道	11			
17	カヌー	10			
18	ボクシング	7			
19	卓球	5			
20	アーチェリー	4			
21	近代五種	4			
22	テニス	3			
23	バドミントン	3			
24	ホッケー	3			
25	野球	3			
26	トライアスロン	2			
27	ソフトボール	1			
合 計		376			

※夏季・冬季の両大会に出場した男性1人は集計から除外した。

1-4 オリンピック出場大会

図1に、夏季大会出場者の分布を示した。最も古いのは1952年の第15回ヘルシンキ大会で、直近2012年の第30回ロンドン大会まで16大会に渡り回答を得た。回答者が最も多かったのは「1964年東京大会」73人で、次いで「1988年ソウル大会」59人、「1984年ロサンゼルス大会」51人、「1976年モントリオール大会」46人、「1992年バルセロナ大会」40人と続いた。「1964年東京大会」が最も多いのは、これまでの夏季大会のなかで出場者数が最大（355人）であったためと考えられる。

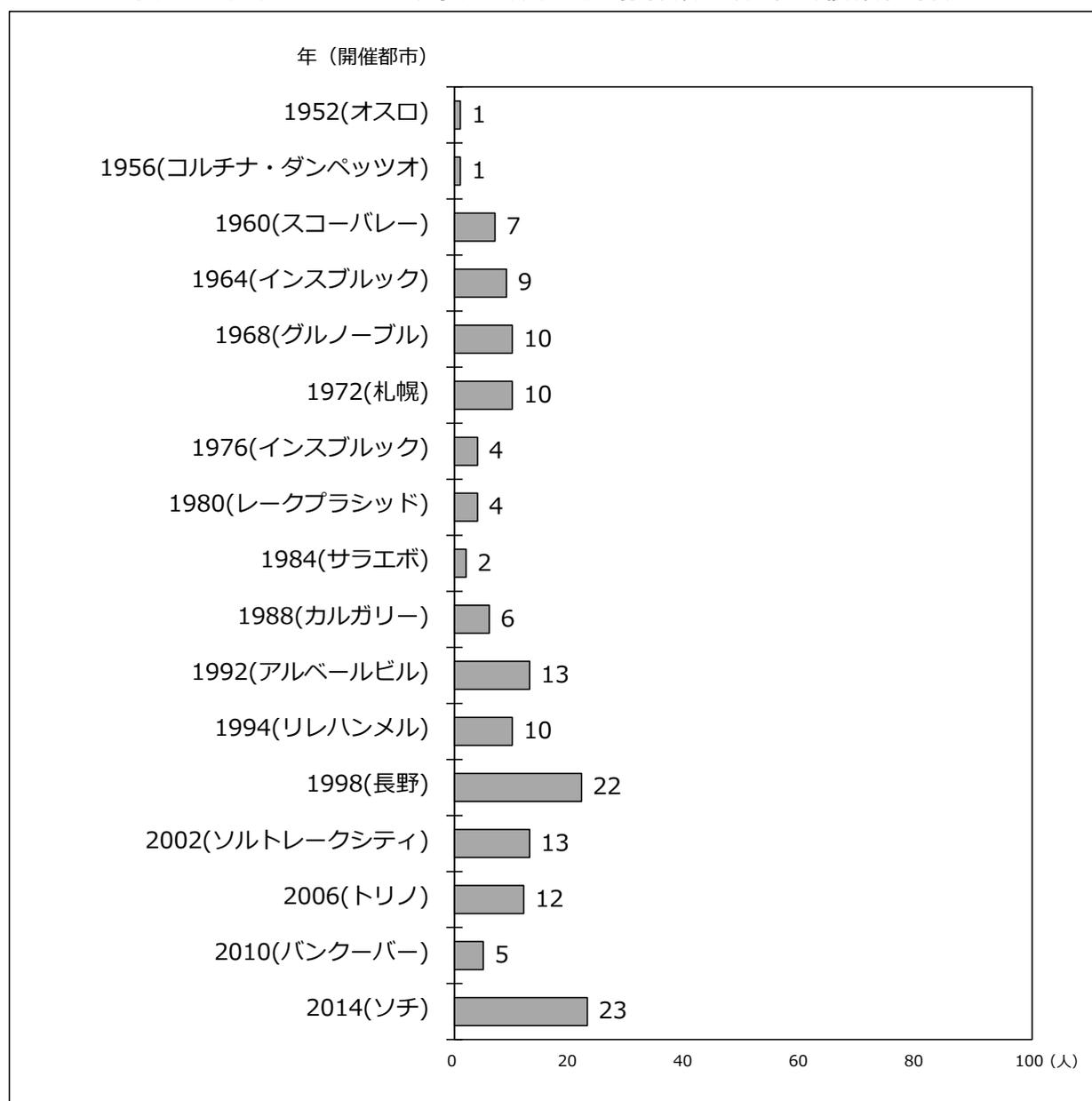
図1 オリンピック夏季大会別の出場者数の分布（複数回答）



※1980年モスクワ大会は出場予定者。

図 2 に、冬季大会出場者の分布を示した。最も古いのは 1952 年の第 6 回オスロ大会で、直近 2014 年の第 22 回ソチ大会まで 17 大会に渡り回答を得た。回答者が最も多かったのは「2014 年ソチ大会」23 人で、次いで「1998 年長野大会」22 人、「1992 年アルベールビル大会」「2002 年ソルトレークシティ大会」13 人、「2006 年トリノ大会」12 人と続いた。夏季大会の「1964 年東京大会」同様、「1998 年長野大会」は、これまで日本が参加した冬季大会のなかで最も出場者が多く（166 人）、回答者も多かったと推察される。

図 2 オリンピック冬季大会別の出場者数の分布（複数回答）



1-5 オリンピック出場回数と出場時の成績および所属

表7に、オリンピックへの出場回数と出場時の成績および所属を示した。なお、回答を得た473人のうち、モスクワ大会へ出場を予定していたオリンピック選手は出場時の成績と所属が記せないことから、同大会「1回」のみ出場予定だった11人を除外し、複数回出場のうち同大会への出場予定を含む場合は、その分を差し引いて集計した。

オリンピックの出場回数をみると、集計の対象とした462人のうち、「1回」出場したオリンピック選手は313人(67.7%)であり、複数回出場したオリンピック選手は149人(32.3%)であった。2回以上の出場者数は、2回(99人)、3回(40人)、4回(9人)と回数が増えるに連れて減少する。本調査で5回出場と回答したオリンピック選手1人の出場競技は、「アーチェリー」であった。

次にオリンピックでの成績をみると、「1回」出場したオリンピック選手313人のうち、「メダリスト」は48人(15.3%)、「4～8位」60人、「25位以内」112人、これら以外の成績は86人であった(無回答7人)。複数回出場したオリンピック選手では、「2回」出場した99人の成績は、「1回目」と「2回目」に大きな差はみられなかった。「3回」出場では、「1回目」から「2回目」にかけて8位以上の人数が増えたが、「3回目」では「25位以内」が最も多かった。「4回」以上の出場者は、比較的高い成績で安定していた。「メダリスト」に着目すると、「2回」出場したオリンピック選手の1回目は24人(24.2%)、2回目は21人(21.2%)であり、「3回」出場したオリンピック選手の1回目は10人(25.0%)、2回目は10人(25.0%)、3回目は5人(12.5%)と、複数回出場しているオリンピック選手に「メダリスト」の割合が高いことがわかった。

オリンピック出場時の所属についてみると、「1回」出場したオリンピック選手は「民間企業」が134人と最も多く、次いで「大学生・院生」87人、「教職員」24人、「高校生」16人などと続いた。一方、複数回出場したオリンピック選手をみると、「2回」出場したオリンピック選手の「1回目」は「民間企業」と「大学生・院生」が34人と最も多く、「2回目」では「民間企業」が52人と最も多い。この傾向は「3回」と「4回」の出場者における所属の変遷にも共通してみられる。学生から企業へ就職する際、競技を継続する環境が整っている民間企業への就職状況がみてとれる。

表7 オリンピックへの出場回数と成績および所属 (n=462)

(人)

出場回数	1回	2回		3回			4回				5回(以上)				
n=462	313	99		40			9				1				
成績	1回目	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目	4回目	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
メダリスト	48 (15.3)	24 (24.2)	21 (21.2)	10 (25.0)	10 (25.0)	5 (12.5)	3	3	2	1	1	-	-	-	1
4～8位	60 (19.2)	22 (22.2)	20 (20.2)	5 (12.5)	12 (30.0)	9 (22.5)	2	1	3	3	-	1	-	-	-
25位以内	112 (35.8)	33 (33.3)	34 (34.3)	18 (45.0)	11 (27.5)	20 (50.0)	2	4	3	3	-	-	1	1	-
上記以外	86 (27.5)	17 (17.2)	20 (20.2)	7 (17.5)	6 (15.0)	6 (15.0)	2	1	1	2	-	-	-	-	-
無回答	7 (2.2)	3 (3.0)	4 (4.0)	-	1 (2.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
所属	1回目	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目	4回目	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
民間企業	134	34	52	14	28	28	3	6	6	6	-	-	-	-	-
自衛官・警察官	12	8	10	3	3	4	-	1	2	2	-	-	-	-	-
上記以外の公務員	8	1	3	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教職員	24	7	14	1	4	3	1	1	1	1	-	1	1	1	1
大学生・院生	87	34	11	16	1	-	5	1	-	-	1	-	-	-	-
高校生	16	9	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	24	5	6	3	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	8	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 出場回数1～3回の成績欄の()は%。

※2 出場回数が1回と回答したオリンピックのうち、1980年モスクワ大会への出場予定者は集計から除外した。複数回出場の場合は、同大会分を差し引いて算出。

※3 表内の「-」は回答が無いことを表す。